



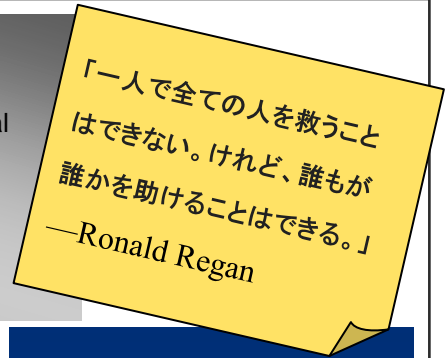
# The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 22 | Issue 2 | December 2018

## 今号では...

- ▶02-04...KISTival 2018
- ▶05...ミスターからドクターへ
- ▶06...スクールカレンダー2019-20
- ▶08...K1の保護者の特技を共有
- ▶10...G5、作家に会う
- ▶11...Anti-Bullying Week 2018
- ▶19...Adobe Creative Cloud Suite Trial
- ▶21...G12経済学クラスの校外学習
- ▶22...地球市民ワークショップ
- ▶23...G8の国会議事堂訪問
- ▶24...Connect to Hisaichi
- ▶32...ピア・サポートリーダーズ



## 理事長より



今年も残すところ僅かになって参りましたが、皆様の冬休みのご予定はもうお決まりでしょうか。

日本では、「年越しそば」と言って12月31日の大晦日にそばを食べる風習があります。一説によりますと、そばは細く長く伸ばして作るのので、「細く長く生きられますように」と、「健康で長生きをする」という縁起をかついでいると言います。私は例年どおり家族や友人と共に年越しそばを頂き、にぎやかに年明けを迎える予定です。

さて、すでにお知らせしたとおり、Mr Jeffrey Jonesが健康上の理由で任期半ばにして学校長の職を辞し、今学年度の残りの期間、私がActing Head of Schoolの職務を担うことになりました。私が理事長とActing Head of Schoolを兼任するのは2011年以来2度目となります。

前回の在任中、理事会の決定によりKISTは「学問的に高いレベルの学校」へと、大きく舵をきりました。2013年にMr JonesがKISTに再赴任され、強いリーダーシップを発揮し、他の教育のリーダーシップチームやスタッフと共に教育改革を推し進めてくださいました。彼らの熱意と貢献、生徒の頑張り、保護者のサポートにより、2年後の2015年には日本でトップのIBDPアベレージを出す学校となることができました。

しかしながら、私たちの生徒が社会で活躍するところには、一つの国にとどまらず、さらに世界と向き合っていくことが求められる時代になっているでしょう。KISTは世界での活躍が期待されるであろう生徒の将来を見据えて、日本のIBDPトップ校であることに甘んずることなく、教育改革の歩みを止めず、さらに進めていきたいと思えます。理事会の決定を受け、現在教育リーダーシップチームは新たな教育改革の予備調査や準備を進めています。皆様にご報告できる日を楽しみにしています。

それでは、少し早いですが日本流にご挨拶を。  
「良いお年をお迎えください！」

**Yoshishige Komaki**  
Board President/Acting Head of School

## 重要な日程



### 2018年12月

- 7 (G1-G12) Clubs program ends
- 7 (K3-G5) LEAP classes end
- 7 (K1-G3) After care not available
- 8 Lego robo-jousting tournament (@KIST)
- 10-12 (G9-G11) Semester 1 examinations
- 13 Winter celebration rehearsals
- 14 Winter celebration
- 14 (K1-G3) After care not available
- 15-Jan 6 Winter vacation
- 17-18 Office open

### 2019年1月

- 7 School resumes for all students
- 7 2019-2020 enrollment applications close
- 7-14 (G12) Semester 1 DP mock examinations
- 11 (G4-G5) Mathematics diagnostic testing
- 14 School day
- 18 (G6-G10) Mathematics diagnostic testing
- 18 (G6-G12) End of Semester 1 (Half day for students)
- 21 Semester 2 commences
- 21 (K3-G5) LEAP classes begin this week
- 22-25 2019-2020 enrollment interviews
- 25 (K1/K2/K3) School holiday



## KISTival 2018

今年は通常通りの KISTival に戻り、いつもの見慣れた準備日の光景が戻ってきました。KISTivalリーダーの皆さまは勿論、保護者の皆さまご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。



心配していたお天気も午後には汗ばむほどとなり、楽しい一日となりました。今年度の売上目標の1000万円には少し届きませんでしたが、入場者数、売上、収益とも過去最高を記録しました。収益は新体育館棟建設への寄付とさせていただきます。収支等詳細は以下の通りです。

保護者ならびに生徒の皆さん、今回のイベントへのフィードバック、来年度の学園祭に向けてのアイデア等ございましたら、[sayoko.naito@kist.ed.jp](mailto:sayoko.naito@kist.ed.jp) までお送りください。

KISTival 2019 がスムーズな運営となるよう、KISTivalリーダーへの積極的な立候補をお待ちしております。

入場者数: 4,200 人超  
 総収入: 9,685,393 円  
 総経費: 2,493,081 円  
 収益: 7,192,312 円

- 総収入には事前および当日のチケット・ラッフル売上、当日現金売上、入場料、寄付金、協賛広告、スライダーフリーライドパス、Contribution、プロフェッショナルブース出店料が、含まれています。
- 経費には、チケット・広告印刷、フードアクティビティ経費、各種レンタル、廃棄物処分費、各種資材費、プロフェッショナルブース出店による売上精算分、Habitat for Humanity の売上精算分等が、含まれます。

ブース	学年	内容	収入	
保護者	G1	ドリンク	¥575,296	
	G2	ポップコーン、チュロス	¥505,000	
	G3	セネガル	¥206,635	
	G4&5	バザー	¥661,178	
	G6	スライダー・ゲーム	¥391,601	
	G7	麻婆丼、餃子	¥303,450	
	G8	おでん、アイス	¥271,753	
	G9	ミャンマー	¥297,283	
	G10	インド	¥382,559	
	G12	ケーキ&カフェ	¥329,500	
	生徒	Lego Club	Lego	¥3,750
		G6A	ボーリング	¥83,375
G6B		ガンシューティング	¥101,625	
G7A&B		トリックアトリート キャンディ	¥54,750	
G8A		スナックバー	¥40,250	
G8B		ボードゲーム、ダーツ	¥23,625	
G9A		Jamalback's Café	¥40,125	
G9B		チョコバナナ	¥97,750	
G10A&B	ホーンテッドハウス	¥95,875		
スタッフ ブース	Staff	メキシカン・クラムチャウダー・Kistagram	¥258,150	
	Staff	北海道スナック	¥126,700	
	Staff	フェイスペインティング	¥82,000	
	Staff	ワニワニパニック	¥76,375	









## KISTival 2018への特別なご協力に感謝いたします！

学校コミュニティの全員のご支援なしではKISTivalの成功はあり得ません。KISTival 2018を成功に導くお手伝いをしてくださった皆様に感謝いたします。以下のご家族には今年のKISTivalの運営に特にご尽力いただきました。

THANK YOU!

### Isozaki family:

KISTival 2018運営特別協賛スポンサーとして運営費のご寄付

### Minoura family:

KISTival前日からイベント終了までスクールバスの駐車場の提供

### Takeuchi family:

北海道物産品販売へ商品のご寄付

その他にもスタッフや保護者の皆さまからラッフル抽選会への景品スポンサーやチラシ広告スポンサー、KISTival告知記事の掲載等でご協力いただきました。順不同でご紹介させていただきます。

THANK YOU!

G8 Sato family | G1 Fujii family | K3 Suzuki family | G2 Terao family |  
G5 Toda family | K3 Itoyanagi family | G1 Hayashi family |  
G4 Ogawa family | K3 Ogawa family | G6 Sim family | G1 Wu family |  
G2 Lyu family | K2 Abe family | G3 Abe family | G9 Ono family |  
G2 Ono family | G10 Ishihara family | G8 Suzuki family |  
G8 Meguro family | G4 Matsudaira family | G3 Ideas family |  
K3 Akamine family | G5 Deng family | G4 Oh family | G1 Usui family |  
G8 Moore family | G8 Shindo family | G3 Koskinen family |  
G3 Raj family | K1 Matsuura family | K1 Wang family | Jones family |  
Ozawa family | Naito family | Sakuma family

また、多くの企業様からご協力いただきました。順不同ならびに略称でご紹介させていただきます。

THANK YOU!

Nisso Sangyo | Goethe House | Doctor Ci:Labo | Tele-net | Yunika |  
Matsuda Hirata Sekkei | Yurindo | Tobu Top Tours | Itoen |  
Kajima Sekkei | Kajima Tatemono Sogo Kanri |  
Sumitomo Fudosan Tatemono Service | Mitsubishi UFJ Bank |  
Kiraboshi Bank | Mizuho Bank | Resona Bank | Roppongi Hills Club |  
Mercedes Benz | Rikashitsu | Glass Lab | Tokyo Central | Print Boeki |  
Prologis | Tanaka Hifuku | Duskin | Sakuma Physical Conditioning |  
Janat | Ichigaya Kaikei | Nack Planning | Tocollo |  
NTT Data Getronics | Win Technology | Taisei Net | Mizuno | KidZania |  
Beltz | Croster | Oedo Fudosan | Hikari Home | Classy | YCM |  
ITJ Law Firm

## エレメンタリースクールニュース

### 精神力が強い子供を育てる

親になるということは、大変ですが、報われる努力です。家族の中心には、子どもがいます。親は常に子どもにとっての最善を願っています。親としての義務には、子どもに機会を提供することと、守ることがあります。しかし、難しいのは、子供たちを守ることと、精神力を鍛えることのバランスをとることです。Tartakovsky(2016)は、子ども時代は決してストレスのない時代ではないと述べています。子どもは、テスト、勉強、転校、いじめ、友達を作る、友達に傷つけられるなど、様々な経験を得て成長します。この中で大事なものは、子供が何が起きても対処、対応できる精神力を持っているかです。

そもそも、精神力の強い子とはどのような子どものことを言うのでしょうか？Healy(2014)は、精神力の強い子どもは、失敗しても折れることなく、次から何をやってみればいいのかを考えられる子どものことだと言っています。自分で立ち上がって、頑張り続けることができるのです。精神力の強い子は、試練をチャンスと考えたとNewman(n.d.)は言います。精神力をつけることによって、子どもは、親がその場になくても、自分で問題を解決できるようになります。

Tartovsky(2016)とNewman(n.d.)は、精神力の強い子どもを育てるために親ができることをリストにしました。その一つで、子供のねだるものをすべて与えてはいけないと言っています。なぜなら、自分で問題を解決する能力が育たないからです。また、もう一つのアドバイスは、子どもに失敗を体験させることです。親にとっては辛いかもしれませんが、子どもが自分で失敗を糧に自分で対処法を学べるようになります。



Newman(n.d.)は、親自らが子どもとともに考え方を変え、成長を促す事が大事だ述べています。知性は持って生まれたものや、固定されたものではなく、また才能や可能性も同様に、努力や忍耐力によって培われるものであると述べています。このような成長には子どもが賢いということを誉めるのではなく、子どもの努力や忍耐力を誉めることが大切です。

世界は、変わり続けます。そして不思議と美しさに満ちています、しかし、様々な試練もあります。これを乗り越えられる、強い精神力を持つ子どもを育てることができれば、将来、私たちがそばにいてあげられないときにでも、子どもたちはたくましく、自信をもって頑張ることができるでしょう。

#### Kevin Yoshihara

Elementary School Principal

#### 参考資料:

- Healy, M. (2014, July 10). The resilient child. Retrieved from <https://www.psychologytoday.com/us/blog/creative-development/201407/the-resilient-child>
- Newman, C. (n.d.). 7 Ways to raise a resilient child. Retrieved from <https://www.parents.com/parenting/better-parenting/advice/ways-to-raise-a-resilient-child/>
- Tartakovsky, M. (2016, July 17). 10 Tips for raising resilient kids. Retrieved from <https://psychcentral.com/lib/10-tips-for-raising-resilient-kids/>

## ミスターからドクターへ

### お祝いと、皆さんにご説明を

ケイ・インターナショナルスクール東京では、生涯学習者であることの大切さを信じ、生徒に対してもこの姿勢を体現する事を心がけています。エレメンタリースクール校長の Kevin Yoshihara も自ら生涯学習者としての姿を体現してきた一人です。この数年間、Mr Yoshiharaは教育の上級学位取得を目指して努力を続けてきました。これまでの努力が実り、Mr Yoshiharaが12月に教育リーダーシップにおいて博士号を取得されることを皆さんにご報告できることを嬉しく思います。長い道程でしたが、今回の成果をととても嬉しく思います。

Dr Yoshihara、おめでとうございます！！



## PYPニュース

### 新しく強化・改善されたIB PYP



先月、国際バカロレアは新たな“PYP: From Principles into Practice”または、“強化・改善された” PYP standards and practicesのデジタルリソースを発表しました。これまで長く噂され、また多くの期待が寄せられていた探求ベース学習の教育基準をまとめた“Making the PYP happen: 国際的な初等教育カリキュラムの枠組み”の改定が行われ、これまで教育者や保護者現場の指導者などが蓄積してきた最新、最良の教育実践を反映されたものとなりました。

今回の発表はIB教育者がこれを時間をかけて確認し、議論を交わし、新しい枠組みを日々の学校生活に反映させることができるように行われました。今回の改訂版は4つの焦点領域からなっています。目的、環境、文化と学習です。この文書は3セクション、200ページ以上にわたり、研修と議論に基づいた新たな教育実践について述べています。今回は、特に顕著な変更点がいくつかあり、まずはその大きな変化についてお知らせしたいと思います。

より充実された枠組みの中には、行為主体性や物事を達成することに対する自信の強化などがあります。学校は生徒たちが自身の意見を持ち、学習に関する意思を明確にし、選択し、主体的に取り組んでいるかを確認します。これには教師と生徒が知識の探求において良いパートナーシップを築けていることが不可欠です。これによって主体性が発達した生徒は、クラスの他の生徒との交流も自信をもって行うことができます。授業でも生徒に不可欠の体験として、より主体性や自主性の発達をサポートする方向で進められていきます。

PYPの変化はこれだけではありません。PYPにおける理論的な変更に加え、より実践的な変更もあります。K3には探求単元を年6回もしくは4回にする選択肢が与えられます。探求単元の数を減らすことで、より奥深い探求を行うことができるようになります。さらに、IBはすべての科学と人文教科を探求単元のみを含め、その中でのみ学習しなければ

ならないという要件を撤廃しました。これにより、これら教科を単科として指導することが可能になります。学習へのアプローチ(Approaches to Learning)に関しても、PYPガイド、もしくは学校が独自に選定できるようになります。これらはPYP指導における変化のほんの一例です。

上記変更点によって、エレメンタリー全体で新たに議論し、学ばなければならないこともいくつかありますが、各学年の各クラスでの指導の質はこれまでのものを維持していきつつ、更なる高みを目指します。すべてのIB PYP校において、「強化・改善されたPYP」における理解と輝かしい未来を迎える将来を楽しみにしています。

Clay M. Bradley

## スクールカレンダー2019-20



ご家族の旅行、特に海外への旅行計画などの利便性を考え、2019-20年度の長期休暇や重要な行事日程を以下に記載します。

ご家族には、生徒が休み明けに必ず登校できるよう日程をご確認の上、旅行等の計画を立てて頂きますようお願いいたします。

カレンダーの完全版は6月に配布されます

- **新学年度生徒始業日:**

**2019年8月19日**

- **KISTival:**

**2019年10月26日**

- **秋期休暇:**

**2019年10月27日～11月3日**

- **冬期休暇:**

**2019年12月14日～2020年1月6日**

(生徒の新年度の始業日は2020年1月7日です)

- **春期休暇:**

**2020年3月21日～29日**

- **ゴールデンウィーク休暇:**

**2020年5月2日～10日**

- **生徒の最終登校日:**

**2020年6月17日**



## 幼児教育ニュース

皆さん、こんにちは。

皆さん、先月末、11月23日に行われた、三者面談を楽しまれたでしょうか？保護者の皆様の影響は、幼児の発達にとって欠かすことのできないものであり、子ども達の学習面への継続的なサポートを本当にありがとうございます。ご家庭と学校が一緒に力を合わせることによって、賢く、思いやりのある、調和のとれた子どもに成長できるとしております。今後とも引き続き、ご協力お願いいたします。

幼稚園部では今年度より、K1クラスからK3クラスのお集りの時間を設けました。昨年度までは小学生と一緒にでしたが、このように人数の少ない、顔見知りの人たちの中での集会は、小さな子ども達により、人前に立つ機会を与えるものと思っています。このような人前で話をする機会は、子ども達の社会性や発言力、そして自信をつけることに役立っていきます。



9月には一番初めの集会がありました。K3クラスの子も達が、幼稚園の園庭の使い方について発表してくれました。その中でK3クラスの子も達は、自分たちで作ったポスター、スライドショー、短い劇などをしながら発表してくれました。



この集会はMPRで行われます。昨年までのように小学校全体で体育館で行われるのとは異なり、K1からK3の子も達にとっては、ちょうど良い大きさとなっています。K3クラスの発表時には、仲良しでよく知っているK3クラスの発表であり、K1やK2クラスの子も達も質問をしたり、思ったことを発表の後に話したりすることができていました。

11月の下旬にはK2クラスの子も達が、Anti-bullying週間の中で 'Respect' について発表してくれました。まだ、年中さんではありますが、K2クラスの子も達、みんな大きな声で自信をもってみんなの前で発表することができました。K2クラスの子も達は私達の気持ち言葉によってどのように傷ついたり、治ったりするかを大きなハートのパズルを用いて、また、それらの言葉が私たちのみえない内面にどのように影響するかを、リンゴを使って発表してくれました。



K2Aクラス、K2Bクラスのみで作った素敵なビデオは皆様にもご覧いただけるよう、こちらにQRコードを記しておきます。

さて、2月には一番小さなK1クラスが発表をする集会があります。K1クラスの子も達はK3、K2クラスのお兄さん、お姉さんの発表する姿を見て学んでいるので、いったいどんな集会になるのでしょうか？今から楽しみです。

このK1からK3クラス集会で発表することにより、子ども達がより自信を持てるようになることを願います。

最後になりますが、幼稚園の園庭といえば、今年度に入り、子ども達が使いやすいよう、教員たちで少しずつ、園庭を変えていっております。子ども達は、ただ、走り回ったり、



遊具で遊ぶだけでなく、より自然に親しんだり、友達と関わって遊ぶようになってきました。



みなさん、良いお休みをお過ごしくださいね。



**Eri Ozawa**  
Early Childhood Coordinator (K1-K3)/K1B Teacher



## K1の保護者の特技を共有

'How we express ourselves' (どのように自己表現するか)の単元では感情表現と創造力を芸術を通して表現する事に注力しました。2つのクラスの保護者の皆さんがボランティアとして特技を披露することでクラスの取り組みをサポートしてくださいました。

**Izuru と Kazuma**のお母さまたちはクラスで餃子を作ってくださいました。生徒たちは捏ねた粉を平らにして生地を作る方法を教えていただきました。それから生地をひだにして折り、タネを包む方法も教わりました。

**Kaito、Lisa、Kazuma**のお母さまたちはドライフラワーを使ったオーナメント制作のワークショップを開いてくださいました。生徒たちは各自、一切れのケーキの形をした陶器に自然の素材を入れてオーナメントを作りました。

**Julie、Kaito、Izuru、Lisa**のお母さまたちは松ぼっくり、小枝、どんぐり、木の葉などの自然の材料を使ったフォトフレームオーナメントのワークショップを開いてくださいました。

**Riu**のお父様は舞台俳優としての才能を両クラスの前で披露してくださいました。子どもたちの前でミュージカル「グランドホテル」の1シーンを演じてくださいました。

**Julie**のお母さまは両クラスの生徒に「ピラティス」を指導してくださいました。ピラティスは私たちの筋力や柔軟性、そして精神力を養います。

**Julie**のお父様は子どもたちにヒップホップダンスを教えてくださいました。子どもたちは音楽に合わせて手をたたきながら膝を曲げたり伸ばしたりする、基本のステップを覚えました。また、この基本ステップを踏みながら、左右に移動する動きも学びました。

K1の子どもたちのために貴重なお時間を割いてくださった保護者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

**Claire Yoneyama**  
K1A Teacher





## G3A "Blast from the Past" 雑誌プロジェクト

G3Aの2つ目の探求単元は、'How we express ourselves'(どのように自分を表現するか)で、この単元の総括的評価課題(summative assessment task)は"Blast from the Past"というタイトルのポップカルチャー雑誌を作ることでした。この単元の学習中、クラスでは過去にあったことに影響を受けている現在のポップカルチャー(大衆文化)についての探求を行いました。また、総括的評価課題で必要となる特定のリテラシースキルも学びました。例えば、雑誌の記事を書くための系統だったライティングスキルや、映画などの批評文、雑誌によくある種類のパズルの作成などです。

過去と現在の関連性を見出すために、生徒たちはあまり馴染みがなかったり、興味なかったポップカルチャーについて調べなければなりません。また、同時に自分の好きな事柄についても新しい事実を発見したりもしました。例えば、生徒たちが、現代の新しい流行であると思っていたポケモンは、私がティーンエイジャーのころからあった古いキャラクターであるといったことです！単元が進むにつれ、生徒たちは、人にはそれぞれ異なる趣味嗜好があるということを理解し、互いへの理解を深めると同時に異なるポップカルチャーにたいして柔軟な姿勢をみせることができるようになりました。

また、総括的評価課題でほかの生徒と協力し合うために効果的にコミュニケーションをとることが求められました。雑誌を作るにあたってはテーマを決め、読者の興味を掻き立てるような様々な記事を含めることが求められます。社会性や自己管理のスキルを高めるために、各グループで資料を管理し、取りまとめるリーダーや、進行状況を管理するタイムキーパー、表紙をデザインするデザイナー、記事ごとに必要な要素が入っているかを確認する品質管理者を決めて作業を進めました。

この単元の終わりに、5つのグループが発行した雑誌をまとめて印刷し、プロジェクトを通して学んだスキルについて振り返ることができるようにG3Aの生徒たちと共有しました。

このページにあるQRコードから生徒たちが作った雑誌をご覧ください。

生徒たちが興味を持っている事柄を知ると同時に、皆さんが幼かったころに夢中になっていた事を懐かしく思い出していただけたなら幸いです！

Oliver Sullivan  
G3A Teacher



## G5、作家、Ching Yeung Russellさんに会う

「作家にあったことなど一度もない。  
作家というのはどこか、  
手の届かない遠くにいる誰か、  
本当にはいない人」

Ching Yeung Russell著、Tofu Quiltより抜粋

‘How we express ourselves’ (私たちはどのように自己表現するか)の単元の一環として、G5では詩について学びました。生徒たちに自由詩に触れてもらうため、Ching Yeung Russell のTofu Quiltを読みました。これは、1960年代に香港で育った作者の子ども時代の経験と、作家になるまでの道程をつづった作品です。

彼女の作品を読むうちに、Ms Russell が学校を対象にスカイプでのプレゼンテーションをしてくださっていることを知り、とても興奮しました。そして、KISTの依頼を実際に受けてくださったときは本当に感激しました。スカイプミーティングの準備のために、Russelさんの創作のアプローチなどについての生徒からの質問リストを事前にお送りしました。

生徒たちは心からMs Russellのプレゼンテーションを楽しみ、作家になれる前に直面された困難、特に第2言語である英語での出版に関する苦労についても学びました。多

くを学ぶことができた、Ms RussellのSkypeプレゼンテーションについてのG5の感想です。



Ching Yeung Russell さんが13(以上の)下書きをされていたということに感銘を受けました。私自身も1回目の下書きで、綴りや文法のことは考えますが…自身の考えだけでなく感情を込めること(がより大切だと)学びました」

**Mamiko (G5B)**



Ching Yeung Russel さんはとても頑固な人だと思いました。ご主人が英語の本を書くべきではないといったにもかかわらず、書き続けたからです」

**Minu (G5B)**

Ms Russell とインターネットの力に感謝します。おかげで、G5の生徒たちは「本物の」作家に会うことができました。

Ching Yeung Russellさんとその著作に興味を持たれた方は、以下ウェブサイトをご覧ください。

**Web** <http://chingyeung.homestead.com/>

**Scott Grant**  
G5B Teacher





## Anti-Bullying Week 2018

11月26日から30日にかけて、Anti-Bullying Week 2018(反いじめ週間2018)が行われました。今年のテーマは“Choose Respect”(尊敬を選ぶ)でした。いじめは個人に様々な悪影響を及ぼします。Anti-Bullying Week は学校のコミュニティとしていじめについて理解を深めるためにとても良いきっかけになりました。



今年、私は Elementary SRC にいじめ防止を促進するためのアクティビティを用意するよう頼みました。一つのイベントの例としては、10月25日に行われた“Odd Socks Day”があります。これ

は生徒にとって自分を表現することと個性を尊重すること、一人一人が独特な個性を持っていることを気づくための良い機会になりました。生徒が選んできた色々な靴下は見ていて面白かったです。これを通して彼らの異なる興味・関心や性格などが見えてきました。

この活動を通して、私は Elementary SRC のメンバーにとっても感心しました。なぜなら彼らはIB学習者像の **principled (道徳心のある人)** を体現し、これらのイベントを責任感を持って、率先して準備してくれたからです。

三年生の生徒も、11月26日に反いじめのアセンブリーを開催しました。この学年はいじめとは何なのか、被害者はどう感じているのか、どういじめの問題を解決できるのかを中心に考えてきました。音楽の担任、Mr Collinsは本番で生徒が自信をもって歌えるように、音楽の授業中にアセンブリーで発表するラップの歌を指導してくれました。

こちらはアセンブリーのビデオへのリンクです。お楽しみください。



**Kana Furnival**  
Student Care Coordinator  
(Elementary)

This article was translated by Kaoru (G10B).  
この記事はG10B Kaoru が翻訳しました。



## エレメンタリーでの評価

保護者の皆さん、こんにちは! 冬休みが近づくなか、1月の診断テストや2月のISA試験についてそろそろ気にされている方もいらっしゃるのではないのでしょうか?

これらの試験は私たちに教師にとっても、年度末の評価までに力を入れるべき分野を確認するうえでも非常に重要なものです。この時期にお子さんを学習面でサポートし、同時にお子さんと皆さん自身の不安やストレスを軽減するためのアドバイスをご紹介します。

これからご紹介するのは保護者の皆さんに有益なアドバイスや教材を提供している英国ベースのウェブサイトwww.satspapersguide.comから抜粋したものです。ここでは特に重要だと思われるもののみをご紹介しますが、以下リンクから記事全文をご覧くださいませ。



- **前向きな態度** 子どもたちは皆さんの気分を敏感に察知します。皆さんがストレスを感じたり、イライラしているとそれが子どもにも伝わります。できるだけリラックスし、前向きな態度をとるようにすることがお子さんのサポートにもつながります。
- **スケジュール管理** 集中できる静かな学習時間を確保するために、お子さんのスケジュールを決めることは重要です。学習時間はお子さんと保護者双方にとって都合の良い時間であることが望ましいです。
- **結果だけでなく、過程や努力を誉める** 保護者として、お子さんの間違いを見過ごす、または認めることは難しいと思います。お子さんの小さな間違いや失敗は感情を波立たせるものかもしれませんが、可能な限り、お子さんの努力を褒めるよう心がけましょう。
- **就寝時間** すべての子どもは異なる個性を持っており、家庭毎に異なるスケジュールがあると思います。それでも、お子さんが朝、いつも疲れた様子を見せる場合、特に今の忙しい時期は、就寝時間を定めることをお勧めします。
- **楽しむ** あまり構えず、学習時間を気軽に楽しむことでもっと効果的に学ぶことができるようになります。

**Web** <https://www.satspapersguide.co.uk/sats-information/top-ten-tips-sats-revision/>

この記事が皆さんのお役に立つことを願うとともに、生徒たち全員が評価テストで実力を発揮できることを祈っています。

**Oliver Sullivan**

Elementary Literacy and Numeracy Assessment Coordinator/G3A Teacher

## 入試ディレクターミーティング

11月13日(火)に毎年恒例の **Kanto Admissions Directors Network** をKISTで初めて開催しました。

これは関東地区のインターナショナルスクールの入試担当者などが集まる会で、25校から40名程度の参加者がありました。当日は学校カフェ提供のおいしい昼食を堪能した後、入試・出願関連の傾向や最新情報を共有するミーティングを行いました。多くのインターナショナルスクールで生徒数の増加がみられ、また多くの学校がより広い施設や土地への移転や、新築、増改築を検討しているという情報は興味深いものでした。KISTも新校舎建築計画を参加者に発表できたことは大きな喜びでした。

一日の締めくくりはKISTの校内見学でした。セカンダリーでは、生徒の代表が参加者をご案内しました。**Mai** (G11A)、**Emiri** (G12B) そして**Igor** (G12B) の堂々とした案内と、貢献に感謝します、本当にありがとうございます。

**Craig Larsen**

Director of Admissions and Personnel



Mai



Emiri



Igor



## エレメンタリーELS

### 生徒の家族との探求単元についての会話報告

“Inquiry is Universal”の掲示板に貼られている多数の多言語の単語カードから、生徒たちがご家庭でも探求単元についてご家族とお話されていることがうかがえます。

探求単元は簡単なものではありません！でも、ご家庭での会話でお子さんが難しい概念を理解しやすくすることができるのです。どうすればいいのでしょうか？

生徒たちのコメントです。

#### Halona (G4A)

“**最**初の単元が仏教についてで…お母さんとお父さんがリサーチで…言葉を手伝ってくれて…自分でもいくつか訳しました。(これは)LMCに行ってトピックについての本を読んだときに役立ちました。知らなかった言葉がわかったし、歴史についてもいろいろ知ることができたので”

#### Rena (G4A)

“**共産主義**”の意味が分からなかったのですが、お母さんに聞いて、一緒にリサーチをしたら、わかりました。(本に)載っている言葉の意味が分かったので(役に立ちました)。民主主義や他の政府・政治の種類についてロールプレイをしたので、Ms Thomas が話していることの意味が分かるようになりました。”

#### Reshma (G5A)

“**移**動・移民にはいろいろな種類があります。私はこの言葉を自分の母国語と英語で学びました。これは Mr Archibaldの授業を聞くのに役立ちました。It helped me with the SAT(包括的評価課題)で移動・移民の要因を知ることにも役立ちました。これまで全く知らなかった言葉を知ることができたのでわくわくしました。(…)なじみのない言語に言葉を教えるのは楽しいので、両親と一緒に楽しんでくれました。”

#### Shido (G4A)

“**最**初は“流通”の意味が分からなかったのですが、お母さんに教えてもらいました(…)僕はよくお母さんに英語を教えてあげて、日本語の意味が分からないときはお母さんが教えてくれます。これで、自信をもって安心して文章を読むことができるようになったので(役に立ちました)…[UOIの単語を訳すときに]ゲームをしたりしました…。まず、その言葉が他の言語でどういう意味なのかを考えて、(それから)実際に自分があっていたかを確認するために検索をしました。”



お子さんがInquiry is Universalの掲示に貼るための単語を覚える手助けをすることは家庭での会話をスタートさせる素晴らしい方法です。

#### Sasha K (G5B)

“**原**子力エネルギーについてリサーチをしていたら、お母さんが、私のお祖父さんが原子力科学者だったことを教えてくれました。お祖父さんが科学者だったことは知っていましたが、原子力を研究していたのは知りませんでした。これからは質問があったら、お祖父さんに電話して聞くことができます。”



G5A(移動・移民)のReshmaとG5B(原子力)のSasha Kが家族と母国語でディスカッションをした後、自信をもってUOIに取り組みました。



G4AのRena, Halona, HirokiとShidoがUOIの英単語を母国語に翻訳。UOIをよりよく理解するために家庭で保護者とディスカッションを行いました。

家庭で学んでいることについて話すことが役に立つ理由は、家族と話すこと自体が“pre-reading(事前読書)”や“pre-listening(事前リスニング)”タスクになるからです。ご家庭でのサポートはお子さんがテーマに興味を持ち、テーマを身近なものに感じ、基礎知識を得る手助けとなるのです。これらは実際に本を読んだり、クラスでのディスカッションに参加する前に必要なステップです。テーマに関心を持ち、基礎知識を持つことで、その先の学習プロセスが容易になるのです。

家庭で、母国語で学んでいることについて話すことは**本当に役に立つのです**。お子さんはご家庭で築いてくださったテーマとの関連性や知識を英語に変換することができます。そして、もちろん、学校がこの変換をしっかりとサポートします。

Rachel Parkinson

Elementary ELS Coordinator/G5 ELS Instructor

## LEAPニュース



LEAP生徒の皆さん、今期はとても良く頑張りました！2018年のLEAPコースが終了した今、冬休みを心ゆくまで楽しんでください。この場をお借りして、今期のLEAP生の成果についてお話ししたいと思います。

今期3回発行されたLEAPニュースレターでもお伝えしてきましたように、LEAP生はインストラクターの指導の下、様々な創意にあふれた活動に参加してきました。ここではそのうちのいくつかをお伝えします。K3のMs Wangの朝クラス生はジェンガで遊びながらサイトワード(基礎単語)を学ぶとともに、リーディングへの意欲を育みました。低学年の生徒が基礎的な言語スキルの習得に励む傍ら、Ms RachelのG5午前の英語サポートクラスではthink aloudsのような活動を通して意見の発表や整理の方法などクラスでの授業に役立てる技術を学びました。放課後プログラムではMs EmmaのG5クラスの生徒数名がオリジナルの代数パズルを作り、他の生徒のためにエレメンタリーオフィスの外に掲示しました。これらLEAPでの活動の写真はエレメンタリーオフィス外のLEAPボードに掲示されていますので、ぜひご覧ください！

LEAPの授業について考えると、英語学習者が成功するために受ける効率的なサポートの重要性が重要だと感じます。授業前の30分は些細な時間に感じられるかもしれませんが、LEAP授業が提供される1期13週間で週5回のクラスを受講していたなら、1日の学校での授業時間総数を6時間半と仮定して、丸5日分の授業を受けた計算になります。他のLEAPクラスの生徒も活気ある授業を受けることができます。少人数クラスでの安心して発言できる環境のせいか、生徒たちは自信をもって、活動に参加し、タスクをこなすことができます。生徒たちがこれからもLEAPが提供する学習を通して進歩し続けることを願っています。

2期目について少し前倒しでお話させていただくと、LEAPの推薦メールが12月14日に保護者アカウント宛てに送られる予定です。冬休み前に推薦のご連絡をお送りすることで、保護者の皆様にはLEAPのお申込みの予定を立てていただけると同時に、ご家庭でもお子さんのサポートをしていただけたらと思っております。

LEAP 2期目の申し込み開始は冬休み明けの予定です。また、LEAP授業は1月21日から再開されます。

ご質問がございましたら [LEAP homepage](http://leap.kist.ed.jp) にアクセスしていただくか、直接 [leap@kist.ed.jp](mailto:leap@kist.ed.jp) までご連絡ください。

**Katherine Millican**  
LEAP Coordinator



Ms EmmaのG5算数クラス



Ms EmmaのG5算数クラス



Ms RachelのG5始業前サポートクラス



Ms Linaの放課後発展クラス



Ms LinaのG2始業前サポートクラス



Ms WangのG2始業前サポートクラス



## KIPSニュース

### From the P1 classroom...



新年度が始まりもう3か月が過ぎました。最初お父さんお母さんと離れる不安から泣いていた子どもたちも、今では友だちという楽しさを見つけて毎日楽しそうに過ごしています。一緒に遊び、Specialist classを楽しみ、お昼ご飯を食べ、お昼寝をし、みんなで同じ時間を過ごしなが、友だちとの関係を深めています。毎朝、Circle timeが終わると、Music、Art、Japaneseの中から一つのクラスに取り組みます。活動内容は、毎回テーマに合わせてそれぞれの保育者が計画を立てていますが、どのクラスでもP1の子どもたちみんなが理解できるよう、生活に寄り添えるような内容を考えるようにしています。

季節が秋になった現在、子どもたちは毎日の外遊びで葉っぱの色が変わってきていることを発見したり、どんぐりを拾ったりと季節の変わり目を感じながら日々過ごしている姿がみられます。そのことを子どもたちがより意識できるよう、Music classでは“Why Do Leaves Change Color”の歌に合わせて目でも分かるようペープサートを見ながら歌いました。外遊びにて色が変わった綺麗な葉っぱやどんぐり拾いを楽しむと、Japanese classではその葉っぱを使ってクラフトを作ったり、どんぐりころころを歌ったりしました。そしてArt classには、カラフルなセロファンを使って葉っぱのスタンドグラスを作ったり、みんなで一つの大きな秋の木を作ったりしました。

このように一つのテーマに沿いながらも、色んな視点から全員がより理解を深められるよう取り組んでいます。今後も子どもたちが意欲的に取り組めるような活動を考えているので、みんなが楽しんでくれるよう関わっていきたいと思います。

**Mai Inagaki**  
P1 Teacher



### From the P2 classroom...

P2のお友だちや先生のサポートもあり、子どもたちは日々新しいことに自信をもって取り組めるようになりました。



KIPSの子どもたちはハロウィーンを祝い、クッキーやシールをもらうと大きな声と満面の笑みで“Trick or Treat”と叫んでいました。また、今期はいくつかの新しい歌と踊りを覚えていたので、パーティで発表することができました。

さらに、3本指で物をつかむことを練習し始め、最初の練習の後は授業や食事の時に積極的に3本指を使うようになりました。P2ではJolly Phonicsを導入し、いろいろなライムを練習し、自分で歌えるようになりました。子どもたちが特に気に入っているのは“Copy Cat”と“Cuckoo, Where Are You?”です。



ハロウィーン、3本指でつかむこと、そしてJolly Phonicsが子どもたちの新たなお気に入りです！最初はこれらみんな怖くて難しいものでしたが、今ではみんなが喜んで参加するものになっています。

**Brooke Esper**  
P2 Teacher



## セカンダリースクールニュース

### セカンダリー校長Mr Coweのメッセージ

この時期は毎年、クラスでの学習をサポートするためのイベントなどで大忙しです。今号の*The Comet*では、先日実施したG7合宿についての生徒による記事をお読みいただけます。また、今年の初めに行われたG11合宿について生徒が寄稿した感想もお読みいただけます。また、KIST生が参加をしている新旧織り交ぜた運動部の活動についての記事もあります。更に、今年から、*The Comet*で、生徒の授業や学習についての情報も提供させていただいています。今号ではのEnglishとI&S(人文社会)の学習についての寄稿があります。

今年も、昨年に引き続き、毎月の茶話会、“Coffee and Cookies with Mr Cowe”を開催しています。よく、保護者の方から頂くご質問に、学校の課題であるリサーチに取り組むお子さんをどのようにサポートしたらいいか、というものが

あります。学校としては、教師の指導のもとで、生徒のリサーチスキルを伸ばす事を目指しています。保護者の皆さんに是非お願いしたいのは、もし、お子さんがリサーチを困難に感じていたり、時間をかけすぎている様子が見られたら、教科担任や私自身にご連絡くださることです。ご連絡をいただければ、学校として適切なサポートや指導を提供いたします。

皆さんが楽しく、安全な冬休みを過ごされますことを願っております。もし、ご質問やご懸念がございましたら、ご遠慮なく私にお知らせください。

**Mark Cowe**  
Secondary School Principal

## KISTでのスタッフ研修



多くの教育リーダーたちによると、学校の教育チーム(教員)の専門性を高めることこそ最も効果的な研修であるそうです。KISTではこのような専門研修を“Working Together, Learning Together”と呼んでおり、今年最初の研修を9月16日(金)に実施しました。

今年は、14名のKISTスタッフが以下のテーマに沿ったセッションを提供しました。

- 漫画や漫画雑誌を用いた指導と学習
- 差別化
- 良好な教員-保護者関係を築く
- アクションリサーチ-より良い質的データ分析のために
- Flipped Learning(順序を逆にした授業)
- ATL(学習へのアプローチ)を通して自立した学習者を育成する
- KISTでの信頼性のあるライティング文化の育成
- クラスでの学習と態度・行動管理における音楽概念の適用
- Microsoft Teams
- 思考の可視化のための探求の壁の作成
- 学習過程: 意義深く記憶に残る学習経験のために

スタッフを対象のインタラクティブで意味深い研修機会を提供(講師役を)してくれたすべてのスタッフに感謝します。皆さんの貢献は私たち皆が、そして学校が更に成長する機会を提供してくれる大変重要なものです。ありがとう!



## MYPニュース

**MYP 保護者ワークショップは、KIST生の学習を保護者の皆さんにより深く理解していただくために開催されています。**

新学年度の初めの数週間は生徒たちにとっても新しい挑戦に満ちていて、慌ただしく過ぎ去っていきます。これはKISTのMYP生、特にセカンダリー生活を始めたばかりのG6、そしてパーソナルプロジェクトの完成を目指しているG10に言えることです。

これら保護者ワークショップは日本の祝日の午後で開催され、保護者がMYP学習の重要な点に直接触れられるよう、ハンズオン形式で提供されています。説明は英語で行われましたが、Ms Wakasaにもお手伝いいただき、日本語の同時通訳も提供されました。保護者の皆さんも、教育問題について他の保護者と意見を交わすことを楽しんでくださっているように見受けられました。

### 評価と成績

9月にはMYP新入生の保護者の皆さんがMYPコーディネーターのMr Whiteと、セカンダリー校長、Mr Cowe主催のワークショップに参加されました。このワークショップは評価と成績に焦点を当てたもので、保護者の皆さんにはMYPでの評価の中心となる概念をより理解していただくためのアクティビティに参加していただきました。Mr Whiteによる評価のセッションではMYP教師がIBによって定められた評価基準に従ってどのようにsummative assessment (包括的評価課題)を定め、評価を行うのかについてお話させていただきました。その後、Mr CoweがMYPでの成績のつけ方・成績表についてお話させていただきました。特に重要なメッセージは、成績をお子さんの学習についての理解を深めるために使っていただきたいこと、いまどのような点数か、というよりも、今後どのように改善していくかの指標としていただきたいということです。

### パーソナルプロジェクトのご紹介

G10の保護者の皆さんを対象としたパーソナルプロジェクトの説明会は10月に開催されました。パーソナルプロジェクトはMYPの集大成となるプロジェクトで、かなりの労力を要するものです。Mr Tim とMr White がプロジェクトの概要と、生徒に求める要件・期待値についてご説明しました。また、前年度にパーソナルプロジェクトで優秀な成績を獲得した現11年生から直接保護者の皆さんに自身のプロジェクトについてご説明する機会も設けました。生徒から直接お話させていただくことで、保護者の皆さんにも、これからお子さんが取り組むことになるプロジェクトについてよりはっきりとご理解いただき、望ましい成果物を得るためにはどのようなスキルやアプローチが必要となるのかをご理解いただけたと思います。

いずれの保護者説明会も、参加者の皆さんに豊富な情報と体験を提供できているものと考えています。KISTコミュニティの皆さんが、学校で提供している学習について、振り返ってくださるということは大変重要です。保護者の皆さんが学習に関心を持ち、学ぼうとしてくださる姿勢は生徒に間違いなく、伝わり、良い模範となることでしょう。

**Robert White**  
MYP Coordinator



Mr Cowe とKIST保護者の皆さんがMYPセメスターレポートを探索中



保護者ワークショップはMYPについての理解を互いに共有する機会です



ここでは、保護者の皆さんが評価における明確な基準の重要性について話し合われています



Remi (G11A) が日本語を話される保護者の皆さんに、自身のパーソナルプロジェクトについて説明しています。彼女は東京ディズニーランドを巡るフォトブックを製作しました。



Shu (G11A) は日々のタスクにインターネットテクノロジーを適用した自身のパーソナルプロジェクトを実演中



Megu (G11A) は自身の家族の家系図について調べたパーソナルプロジェクトについて説明



## 科学部門ニュース

### 心の中に

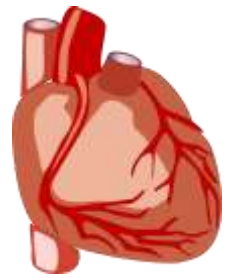
G9Aの生徒21名は鶏や牛の心臓についての探求を行いました。この授業の目的は:

1. 心臓と血管の主な部位についての知識と理解を深めること
2. 適切な機器を用い、解剖の基本的な技術を習得することでした。

2時間の授業はまず、約7キロもある牛の心臓をしっかりと観察するところから始まりました。人の心臓と同じ機能を持つ牛の心臓を用いて、人間の心臓がどのように機能しているかのシミュレーションを行いました。その後、生徒たちは個別に計画を立て、鶏の心臓を解剖し、主な部位や血管を確認していきました。

今回は授業の目的を2つとも見事に達成することができました。また、今回の解剖実習を通して人間の心臓を流れる血管について理解を深め、一回でも鶏の間違ったところを切開してしまうと、観察が十分にできないというリスクを乗り越え、自身の行動に自信を持って行動するというスキルを身に着けることができました。

**Peter Jamal**  
MYP Science Teacher/G9A Homeroom  
Teacher



## G7キャンプの振り返り

G7キャンプは私たちが学校生活から離れてリラックスする機会を提供してくれました。クラスメートとより親しくなり、そしてしっかり振り返りを行うことができました！キャンプのメインイベントは奉仕活動の一環として行った木の伐採でした。この活動で得た重要なメッセージは、学校として行う奉仕活動は、それがたった3時間に過ぎなくても、未来をより良くすることにつながるんだ、ということです。また、もう一つ学んだことは、他の人と協力して何かに取り組むということは、若いうち(例えばG7)に知るべき美点です。みんなで力を合わせることで、高さ20メートル以上、直径1メートルの木を切り倒せるのです。その後のハイキングでは、美しい富士山を背後に望める高さまで登ることができました。

キャンプで取り組んだことは: 森の他の木が生き延びられるように間伐材を伐採、「屋外式」トイレを使用する、学年を一つにまとめた夜のチームビルディング活動、そして一番心に残ったのは、心ゆくまでその景色を堪能した最後のハイキングでした。キャンプで学んだ主なことは、なぜ木を伐採するのかです- 私たちは他の木が健やかに成長するための光を十分に浴びられるよう、木を切る必要があるのです。キャンプではいろいろなことを学んだと思います。学んだことは、すべての行動に意味があり、価値があるということです。

**Haruto と Anant (G7B)**





## Adobe Creative Cloud Suite Trial

**今年、当校ではセカンダリーの一部生徒を対象にAdobe Creative Cloudの年間フルライセンスを無料で提供することになりました！**

個人でAdobe Suiteを購入すると、かなり高額になってしまいますが、教育現場などに適用する割引を利用し、安価でAdobe ライセンスを取得する事が出来たため、今年度、生徒たちへの無料提供が実現しました。

このソフトウェアを生徒やスタッフが使えるようになる事で、ウェブデザイン、グラフィックス、動画、映像、音声、書類の作成などの幅広い事が出来る様になると考えています。Adobe Creative Cloud appを使用するにおいて必要なスキルは、Microsoft Officeを使用することで得られるものと似通っており、生徒たちが卒業後に大学、あるいは仕事に就いた時にも重宝されるものであると考えます。

生徒たちに提供されるライセンスは、Enterprise User ライセンスと言う物です。このライセンス取得により、生徒たちは20以上のCreative Cloud アプリをパソコンにダウンロードする事ができるようになります。さらに、学校のEnterprise IDを使って、他のデバイスからアプリを使う事も可能となります。

学校として初めての試みと言う事もあり、試用期間としてまずは11月22日にセカンダリーの上級生、**9年生から11年生**にライセンスを提供します。そしてこの結果をみて、他のセカンダリーの生にもライセンスを提供したいと考えています。

今年度は教師や生徒にソフトウェアに慣れてもらうための試用期間と考えています。ソフトウェアに習熟するのに長い時間を要することもあり得るので、教師が授業やプロジェクトでAdobe appを使用することを要求することはありません。Creative Cloudが教育にいい影響をもたらすと実感できれば、来年度も引き続きAdobeライセンスを更新し、使用したいと考えています。

学校で12月に開催されるWeek of Codeの際に、9年生の生徒はPhotoshopのトレーニングに参加します。現在Microsoft Office 365 appを駆使しているように、将来的には教師や生徒がAdobe Creative Cloudを自在に使いこなせるようになってほしいと考えています。

Adobeのアプリは20以上もの種類があるため、それぞれのアプリの特徴を知りたい場合はお気軽にAdobeの公式ウェブサイトを確認してみてください。技術的なものもいくつかありますが、Adobeのウェブサイトには資料やガイドがたくさんあり、YouTubeなどネット上にもたくさん情報が回っているの、そちらも参考にしてみてください。

世界的にも使用されているAdobe Creative Cloudを提供することで、将来的に教師や生徒の創造性を高め、生徒の学業成就に貢献できることを願っています。

### IT Support Team

This article was translated by Heizo (G11A).  
この記事はG11A Heizo が翻訳しました。



# Adobe® Creative Cloud™



## 運動部最新情報



### 秋季スポーツ

#### 関東地区クロス・カントリー

KISTからは22人の走者がMS(3.3km)とHS(4.4km)のレースを走りました。その日は天候に恵まれず、森の中を駆け抜けるのには困難が伴いましたが、生徒達はシーズンを通して努力し、成長を遂げました。サポートをくださったコーチの Florent とアシスタントコーチの Ms Biggs に感謝します。



#### 関東地区MS男子サッカー

最初のシーズンで、Cometsは3勝1引き分け4敗という好成績をサッカーフィールドに残すことができました。あと少し運が良かったらベスト4に進めたのかもしれませんが。来年も健闘を祈ります！



#### 関東地区JV男子サッカー

今シーズンは始まったばかりです。シーズンに備えるためにこれまでCometsは強豪校の玉川学園と横浜独逸学園と親善試合を行いました。どちらも敗北という結果になりましたが進展はありません。11月17日のシーズン開幕戦ではSt.Mary'sと対戦し、3-2で勝利を挙げました。



#### ISTAA U-18 男女バレーボール

男女共に強いシーズンを経て、昨年より更に上達しました。女子は、準決勝でコロンビアインターナショナルに勝ちましたが、決勝で強豪校のCIUに敗れ、その結果コロンビアが2位に落ち着き、シーズンが幕を閉じました。一方、男子はTIPSIに勝ち、BSTIに敗れ、そしてCISに勝利を挙げ6チーム中3位に落ち着きました。KIST両チームとも来年も参加するメンバーが数人いるため、戦果が期待されます。



#### ISTAA U-14 女子バレーボール

KISTではU14の女子が7名いましたが、多くのISTAA校はチームを組むことが出来ず試合できる回数は3試合に限られました。清泉インターナショナルスクールと西町インターナショナルには惜しくも敗れたものの、ISTAA校のTIS戦では勝利を挙げました。



#### ISTAA バドミントン

ISTAA初のバドミントン大会はLFITで行われました。U18のチームは無敗記録を保ち続けています。一方で、U14のトーナメントは少し変わっており各校ペアで行われました。KISTは9チーム中1、6、7位でした。



#### 関東地区水泳

9月22日、秋のシーズンにSt. Mary'sにて Igor (G12B) と Tom (G12B) がメダルを獲得しました。

Tom - 200メートル自由形 銀メダル

Igor - 50メートル自由形 銀メダル、100メートル背泳ぎ 金メダル



Tom

Igor



#### Dennis Ota

Extra-Curricular Clubs and Athletics Coordinator



## G12経済学クラスの校外学習

### G12 経済学履修生が日本銀行を訪問

「日本銀行」と聞くと、まず、お金でぎっしりの巨大な金庫室を有する建物をイメージされるかと思います。この印象はある意味正しいかもしれませんが、G12の経済履修の生徒たちの意見は違うかもしれません。11月13日の火曜日に日本銀行を訪問した生徒たちは、この場所が単に利用者とお金をやりとりする場所だけではないことを学びました。金利の維持のためにインフレ率を下げるなどの調整を行ったりなど、日本銀行は日本経済の安定と発展のために不可欠な機関なのです。

学校を午後に出た後、銀行のある三越前駅に向かいました。予約の時間より少し早く到着したので、日本銀行本館に隣接する貨幣博物館を訪問することにしました。博物館では、日本の貨幣の展示の質やその歴史に感嘆しました。特に、何百年も前に使われていた貨幣のレプリカを実際に手にした後、これが実際に使われていた時代に思いを馳せずにはいられませんでした。日本の貨幣の変遷の展示を見学した他に、世界中の貨幣の歴史についての展示を見て回ることができました。これは経済や財務の分野に興味を持っている私たちには貴重な経験でした。

日本銀行の建物の一部は工事中で実際に見学することはできなかったのですが、それでも十分に銀行の重要な役割や、運営について理解し学ぶことができました。まず最初に、広報スタッフの方が出迎えてくださり、別室で日本銀行が日本経済の発展と安定のためにどのような役割を担っているかについてご説明くださいました。この訪問の前に、経済学の授業で通貨政策やその他のマクロ経済の目的について学んでいました。しかし、これら理論が実際に応用されている場面に実際訪問し、お話を伺うことは学んだことを実際に体験する貴重な機会となりました。

この訪問はG12の経済学クラスにとって素晴らしい経験となりました。この訪問実現のために尽力くださった Mr Gombya と Mr Erickson に感謝します。

Jimin (G12A)





## 地球市民ワークショップ

2018年10月19日、ユネスコと連携している、International University Allianceからの二名のメンバーが、KISTでGlobal Citizenship Workshop（地球市民ワークショップ）を提供してくださいました。KISTのMUNクラブのメンバー及び12年生が学校の体育館で二時間のワークショップに参加しました。

最初に、生徒全員で、「地球市民」になるために必要な知識、技能や資質、そして世界規模での「地球市民」を目指す理由などを議論しました。

その後、お互いに共通の考え方をを見つけるため、小グループでのアクティビティーに参加しました。一つの例として、生徒の間で多くあがった共通点は、「我々は、すべてのバイリンガル」でした。これに続き、私たちはより大きなグループを形成するため、別のグループと合流し、再び共通の見解を探しました。その後、体育館にいた生徒全員で輪になり、全てのグループを組み合わせました。50人あまりという大規模なグループで共通点を見つけるのはとても難しかったものの、話し合いを繰り返すことで、やっと「全員動物実験に反対している」という結論に辿りつきました。広範囲な学年、そして多様なバックグラウンドを持つ生徒たちの集まりであったため、予想以上にアクティビティーが難しかったと感じました。

続いて、私たちはいくつかのイラストを見て、何を目しているのか、どのようなメッセージが伝わってくるか、そして個人的見解を共有しました。この議論の大きな構成要素となったのは、文化において「見えない側面の、目に見えるものへの影響力」でした。このアクティビティーは、絵を見た時の視点、何を意味するか、感じ取ったものを話し合うという、非常に啓発的な経験となりました。

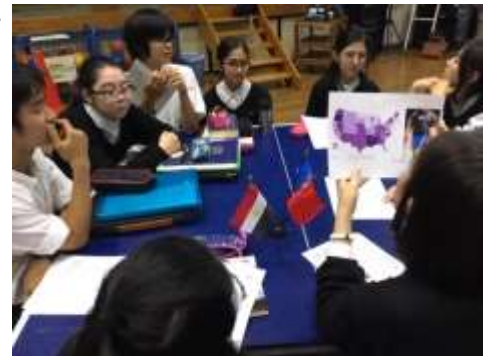
最後に、四枚の画像を与えられ、グループとしてそれらを「受諾」、「許容範囲」、「好む」、「嫌い」の категорияに分類

しました。ほとんどの生徒が与えられた画像が何を表しているか、あるいは何を写しているかをわからないままアクティブに挑みました。その上、グループで決断した仕分けを理由づけなくてはなりません。後ほど、その写真はすべて、社会問題として取り上げられているものだと教えられました。これにより、社会や国際問題において「受諾」することと「許容範囲」であると判断する微妙な境目について考えることができました。

IUAユネスコ地球市民ワークショップは、IBの学生が日々受ける授業と関連していて、文化的多様性に基づいた国際精神の大切さを学ばせてくれました。幅広い国籍を持つ生徒の集まりにより、どのように一人一人の思考、信念と価値観が、経験や養育によって異なるかという深い議論も、ワークショップを通して話し合うことができました。インターナショナルスクールに通う生徒として、私たちはお互いに意見をぶつけ合うのではなく、国際的な話題について話し、心を開きあい、「地球市民」になるための重要性を改めて考える機会となりました。

Marlinah (G11A)

This article was translated by Emiri (G12B).  
この記事はG12B Emiri が翻訳しました。





## G8の国会議事堂訪問

11月20日にG8はI&Sの政府に関する単元の一環として国会議事堂を訪問しました。まず議長公邸を訪問しました。建物には伝統的な日本建築の宗教的なモチーフの彫刻や絵画があり、畳敷きの部屋や日本建築特有の建材が見られました。ここは政府が招待した外国の要人が訪問された際にも使われるそうです。公邸の建築様式からは日本文化が感じられました。ガイドさんからは、公邸の彫刻や飾りは日本の文化に対する敬意と保全の気持ちが込められていると伺いました。公邸には複数の庭園や池があり、これらは日本の地形や日本を取り囲む海を表しているのだそうです。議長公邸に込められた日本文化の粋に心から感心しました。

次に国会議事堂に移動しました。ここでは最上階の赤絨毯や天井の壁画を見学しました。ここでも壁や屋根に多くの彫刻や絵画が見られました。ガイドさんが、議事堂が1936年に完成するまで、20年の歳月がかかったそうです。議場や建物の建築・造形は素晴らしいの一言でした。

全体的に、私はこの経験を非常に楽しみました。議事堂と議長公邸はとにかく美しく、芸術的でした。この訪問はとても興味深いもので、記憶に残るものになると思います。

Saanvi (G8A)



## KIST 模擬国連(MUN)会議

2018年11月17日にKISTでは毎年恒例の模擬国連会議を開催しました。秋にしては暖かな日に、KIST高等部の模擬国連代表団がBritish School in Tokyo, St. Mary's International School, Yokohama International School, International School of the Sacred Heartそして洗足学園からの合計135名の代表者と交流する機会に恵まれました。

今年の模擬国連は事務総長のJinil (G12B)とYuki (G12B)の司会の下、ゲストであるMs Eriko Takahashiとのディスカッションで幕を開けました。このディスカッションで、代表者たちは国連の役割と代表団に課せられた責任と、国連を代表するものとして常に磨き続けるべき資質をよりよく理解することができました。6時間に及ぶ会議のなかで、代表者たちは以下2つの世界的な問題について議論を交わし、解決策を提案しました。

一つ目は「難民や強制的な移民を余儀なくされた人々を受け入れている国の政治的、経済的影響(負担)」で、二つ目は、「ジャーナリストが報復を恐れずに発言し、報道する権利について」でした。参加者たちは割り当てられた担当国を代表し、それぞれの国の立場で見事な議論を繰り広げました。この模擬国連は多くの代表者にとって初めての機会でしたが、全員が積極的かつ活発に意見を交わしました。

多くの学校が参加したため、代表者たちは他校からの参加者との交流を楽しむこともできました。これからもこのような密度の濃い、知的好奇心に満ちた模擬国連が開催されることを心から願っています。

Yuki (G12B)とJinil (G12B)



## Connect to Hisaichi

### CTHの活動を通して自然災害の被災者を支援!

'Connect to Hisaichi' はG11AのKaito と Yui がKISTで新たに立ち上げられたサービ  
ス・プロジェクトです。設立趣旨は日本国内の自然災害による被災者をKISTコミュニティー  
がサポートする事です。



CTH はKISTでの様々なイベントで募金集めの為の活動を行っています。寄せられた募金で、直近の災害に見舞われ  
た被災地に小回りの利く支援を行います。自然災害にあった地域を即座に支援を行うことが私達の目的です。

10月8日のElementary Field Dayで初めての募金活動を行いました。CA保護者の皆さん、スタッフ、そして販売した物  
産品の販売元の方のご協力で66,616円の利益を上げることができました。このイベントでは北海道の物産、おやつを販  
売し、北海道の被災地の強いコネクションを持つ、組織(Open Japan)に寄付を行いました。残りの金額はCTHがこれ  
からも被災地に迅速な支援を行うための資金として確保しています。また、現在、9月の北海道地震で大きな被害を受  
けた穂別小学校への支援を検討しています。地震によって体育館が倒壊してしまった同小学校では小さな部屋で運動  
をしています。そのため、室内でも小学生が楽しく、安全に運動できるように運動用具を送る予定です。

現在のメンバーは以下9名です: **Kaito** (G11A)、**Yui** (G11A)、**Justin** (G11B)、**Megu** (G11A)、**Shu** (G11A)、  
**Izumi** (G10B)、**Marin** (G11A)、**Saki** (G10A) そして **Shota** (G6A) です。

CTH では皆さんが、被災地の生活の質の向上に貢献する事が出来る機会を提供します。次の募金活動は12月14日の  
Winter Celebrationを予定しており、ここでも北海道の物産品を販売します。是非、販売ブースにお越しください。皆さん  
からいただく募金額が多ければ多いほど、大きな支援を行うことができます!





## TOK(知識の論理)選挙2018

「己を知るとことは世界を知るとことである」。IBDPのTheory of Knowledgeは、性別、カルチャー、そして宗教がどのように私たちの知識に影響を与えているかを評価し、生徒たちの情報の得かたや応用力、飛び交う情報の信用度を見極める分析力などを鍛えるプログラムです。これにより、生徒たちはより柔軟な思考を持ち、持論とは違う、様々な視点から自然に状況を分析できるようになります。KISTのTOKは生徒一人ひとりの個性、多様性を祝福し、生徒たちが自らの意見を堂々と表現できるような環境を作れるようにデザインされています。

12年はDPで今に至るまでに多大な努力をしてきました。Ms NeillとMr Smithは、最後のユニットを終わらせるにあたって、生徒たちが協力し合い、サブユニットを復習できる楽しいサマティブ "Theory of Knowledge Election" を開催することを決定しました。KISTのTOK教師たちは、授業や教育をアクティビティーなどを通して行うことが生徒たちの理解度を高め、情報をより深く追求する力をつけるため、重要だと考えています。

知識量を争う六つの班、数学、自然科学、人文科学、芸術、倫理、歴史、を設け。六つの班にはそれぞれ10分間、自分の班の歴史的発展、視野、方法論、そしてそれらがなぜ他の班に勝るのかを論ずる時間が与えられます。しか

し、六つの班の知識はそれぞれ互いの知識をもとに得られる知識であるため、他の班の利点をあげずに自分の班の優越性を主張するのは六つの班にとって難易度の高いものだったでしょう。

知識、説得力、論力を鍛えた、38人のを熱烈な争いはLMCで繰り広げられ、ディスコボールのように光をまき散らすMr Timの明るい雰囲気討論に刺激を加えました。生徒たちがあまりに情熱的で、Ms NeillとMr Smithが討論を管理することが難しくなるほどでした。難しいとはいいつつ、これは実は教師にとって少しうれしいことでもあります。なんといつても、生徒たちが学ぶ環境に引き込まれているわけですから。

六つの班がコスチュームと小道具で武装して勇敢に優越性を競っていたなか、栄冠を勝ち取ったのは数学班でした。その努力と逞しさ、Tom、Shimpei、Natasha、Tian Wei、Dong Wook、そしてChae Hyun、お見事でした！

**Heather Neill**  
DP Core Coordinator

This article was translated by Michiru (G11B).  
この記事はG11B Michiru が翻訳しました。



# Vote



優勝者—数学班



自然科学班



芸術班

## "Sun's Out, Fun's Out"

**2020年度卒業生、静岡県熱海でのキャンプ**  
 ギラギラとした真夏の暑さ、海の寄せ波—2020年度の卒業生となる私たちにとって、これがKIST最後のキャンプの思い出です。

8月29日から31日まで、G11の生徒たちは熱海でDPの導入について楽しく学びました。しかし、今回のキャンプで学んだことはこれだけではありません。時間管理の仕方から美味しいチョコキャラメル作りまで、色々なことを学習することができました。もちろん、キャンプの主な目的はG11がMYPからDPに進むにつれての環境の変化について話し合うことですが、この三日間で学年の団結力が特に強まったと感じました。

熱海でG11の生徒はDPでの学習を助ける「文章の批評」などのスキルを学ぶだけでなく、Mr Hiroによる大学についてのレクチャーやMs PanglによるCASの紹介などのアクティビティを通してDPへの理解を深めることができました。生徒へのインタビューによると、「DPIについての不安が少なくなった」との声もあったようです。

三日間にわたって行ったアクティビティは、DPだけでなく日常生活にも重要な「協力する力」を必要とするものもありました。料理、ダンスやドミノゲームなどは今すぐに適用できるスキルには見えないかもしれませんが、ここから私たちが学んだことは新しいレシピやダンスを覚えること以上のものでした。忍耐力、上達すること、そしてチームワークを身に付けることもできたのです。私たちが訪れた神社の掃除を手伝うことで、熱海の皆さんに恩返しすることもできました。

個人的に、今回のキャンプでは、行われたアクティビティのほかに、私たちG11生徒の団結力とコミュニケーション能力の向上が最も重要な点だったと思います。キャンプには夏休みの二週間後に出発したということもあり、新学年度や新しいクラスメイトに対する緊張をほぐすものでもありました。学年全員で協力したり競ったり、そしてどのように互いに効果的なコミュニケーションをとるかを学ぶことで、DPが始まる中에서도助け合える仲間がいるということを痛感しました。仲間意識や協力体制、互いに対する理解はこのキャンプを通して深く心に刻まれました。きっとこのキャンプで経験した様々なことは、この後も参加した全員の力となり、成功へと導いてくれることと思います。

今回のG11キャンプは、参加した皆にとって忘れられない思い出になったと思います。そしてこの貴重な経験は、2020年度の卒業生の私たちのKISTでのIB、そして将来の成功への礎となってくれと確信を持っています。

**Aryan and Aya (G11B)**

This article was translated by Hanna (G9A).  
 この記事はG9A Hanna が翻訳しました。





## Individuals & Societies (人文社会)部門からのお知らせ

Individuals & Societies Snapshotへようこそ。各学年でこれまで学習してきた内容を簡単にお知らせします！

**Keith Erickson**

Subject Area Coordinator—I&S

### Grade 6

生徒たちは地図というものがどのように時間、場所、そして空間を表すことができるのかを探求しました。学習の一環として、生徒たちは同じ場所を別の視点からとらえた地図を作成しました。以下は生徒の感想です。

「地図はそれぞれで異なっていて、「正確な」地図というものは無いのだと知りました」 **Kate (G6A)**

「メルカトル図法の地図を完全に信用してはいけないということを知りました。でも地球儀は信じて大丈夫！」 **Sumire (G6A)**

「完璧に正確な地図を作ることが可能かを知りたいです」 **Hoyuki (G6A)**

「最終課題では、これまでクラスやリサーチで学んだことをすべて出し切らなければなりません」 **Noa (G6A)**

### Grade 9

生まれつきプレゼンテーション能力を持った人ばかりではありませんが、それでも、皆、自分の意見を持っています。MYPでは口頭での発表・プレゼンテーションはほぼすべてのクラスで必須です。人前での発表を得意としている生徒、そしてそうでない生徒もいます。G9のI&Sでは、効果的なプレゼンターとなるために個々の得意な分野や強みを伸ばすことに取り組んでいます。特に以下2つの学習へのアプローチに注力しました。Affective Skills (情緒的スキル) と Communication Skills (コミュニケーションスキル) です。大人数へのコミュニケーションは生涯必要となるスキルです。G9が授業で行ったアクティビティで培ったものをさらに伸ばしていくことを願っています！



### Grade 10

2つ目のユニットで、生徒たちは貿易や交易が協力体制を生むのか、それとも、搾取を生むのかについて検討しました。生徒たちは以下3つの歴史的事実をもとにケーススタディーを行いました。シルクロード、アヘン戦争、奴隷貿易。奴隷貿易のセクションでは、「三角貿易」の史実を基に創作を行いました。

#### "Life of a Slave"

*Taken from a land far away,  
In ships that hold hundreds of men,  
With no idea where they'll go,  
And no sense of hope.*

*Held by shackles around their necks,  
Forced by white men to give up their names,  
What they have left is nowhere to be found,  
Yet they keep on going.*

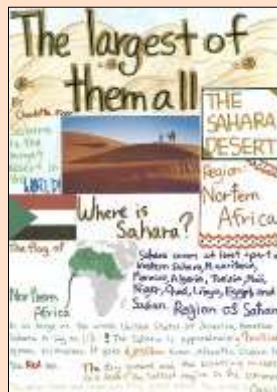
*Now forced to work day and night,  
To serve their masters in perpetuity,  
Bound by their masters in life and death,  
With no freedom or free will.*

*This is the life of an African slave,  
Held by chains and forced to serve,  
For who they were did not matter,  
As they're an object without a name.*

**Aditya (G10A)**

### Grade 7

生徒たちは自然環境と人間の介入とのバランスについて考えてきました。現在、生徒たちは生物群系についての詳細な記事を書くために鋭意リサーチ中です。



### Grade 8

最初の単元で生徒たちは社会の管理体制が異なる文化圏・国において組織され、権力の分散や、公平さや発展を生むのかについて考察を深めてきました。この単元での学習中、生徒たちは君主制、民主制、独裁制を含む様々なタイプの政府について学びました。その後、生徒たちは国会議事堂を訪問する機会に恵まれました。



前ページの続き

### DP Business Management (経営学)

今期、G11の生徒たちは経営学の最初の単元を学習し、理解を深めました。経営学の概念を学び、今後、この科目についてのより深い知識の習得につなげます。以下はこれまで学習したテーマについて生徒がまとめたものです。



企業の社会的責任(CSR)とは企業が事業活動を通じて社会に貢献する方法論です」  
Marlinah (G11A)



企業のビジョンとはその組織が長期的に達成することを目指す目標であり、ミッションとは企業の核となる目標をより幅広い形で述べてものである」  
Kaito (G11A)

### DP Geography (地理学)

2018年11月にG12 DP Geography HLの生徒たちは、麻薬などの禁制品、人身売買、偽造品を含む商品やサービスの世界的流通について学びました。クラスでは様々な関連情報を収集し、自身を「ヤクザの組長」(写真をご覧ください、もっとも恐そうに撮られているのは誰でしょう?)と仮定し、世界の不法取引の流通ネットワークの分析・解析を行いました。この活動を通して様々な地点が、正式なものではないにもかかわらず、世界流通の中心となる可能性を秘めているということを知ることができました。



### DP Economics (経済学)

最初の4半期で生徒たちは保護貿易の是非について議論を展開しました。保護貿易の利点としてあげられたのは国内の労働・職種や幼稚産業(未発達産業)の保護、そして不平等な競争力の回避です。保護貿易反対の立場からは貿易戦争への懸念、国内消費者への価格高騰、競争力の欠如から起こる生産コスト増などがあげられました。



## 保護者会(CA)ニュース



### IT Committee (IT委員会)

本年度よりKIST Community Association (CA)では、新たにIT委員会を設立致しました。

IT関連に経験と知識を持つメンバーが集い、現在は5名で委員会を運営しています。KISTが掲げるミッション、ビジョン、信条に沿ったIT環境の実現に向けて、生徒、保護者、学校との橋渡しができるようIT委員会として貢献して参ります。

IT委員会では、委員会への参加者を常時募集しております。CAについてもっとよくお知りになりたい方は、[ca.officers@family.kist.ed.jp](mailto:ca.officers@family.kist.ed.jp) からCA役員にお問い合わせください

CA IT Committee





## セカンダリーSRC(生徒会)

今年度は新たなクラス役員選挙で幕を開けました。お馴染みの顔と並んでいくつかの新しい顔がメンバーに加えられたのを見て、非常わくわくしました！



SRCメンバーには役員とクラス委員が含まれます。

以下はこれまでSRCが達成してきた事と、現在取り組んでいることのリストです。

### ★デニムの日 - フリードレス・デー

今年度最初のフリードレス・デー(私服登校できる日)は秋に行われた「デニム」をテーマにしたものでした。この日は非常に高い参加率を達成することができました！この日集められた寄付の半分は小児がんで苦しむ子どもの家族や兄弟姉妹を支援するNPO法人「こどものちから」に寄付され、残りは生徒のための運動用具の購入に充てられます。このイベントには全校生徒のおよそ70%が参加し、セカンダリースクールだけでおよそ50,000円の寄付を集めることができました。

### ★KPASS

今年からKIST SRCはKPASSの会議に参加する権利が与えられました。ここでは他のインターナショナルスクールの生徒会長・副会長がそれぞれの学校をより良くするための交流や情報共有を行います。KPASS最初のイベント: St Mary'sで行われるKPASSダンス、は来年初旬に行われます。

### ★SRCダンス

最初のSRCダンスは2月14日、バレンタインデーに開催予定です。テーマやイベント詳細は後日お知らせします。

### ★提案

SRCでは生徒の要求や意見が考慮され、反映されるよう、現在可能な限りの提案事項を可決・承認しようと努力しています。直近の提案は、自転車駐輪場がより効率的で安全に利用できるよう、現在の使用方法・置き方を変更することです。また、校内にたまたま姿を見せるゴキブリ駆除や、運動部の遠征時の交通費の補助を学校と交渉中です。

### ★芸術委員会

芸術委員会では現在「秋の写真コンテスト」、ランチタイムコンサート、そしてフィルムフェスティバルを企画中です。

### ★運動委員会

運動委員会では運動部の試合などでKISTチームを応援するバナー制作に取り組んでいます。

### ★メディア委員会

メディア委員会ではポスターやKISTvを通して、各種イベントの告知や宣伝を行っています。

SRCからのエキサイティングなお知らせをこれからも楽しみに！

Secondary SRC



Let your voice be heard

## 図書室ニュース



### Elementary Library

#### Drop Everything and Read (全てを忘れて読書しよう) – エレメンタリー

今年は従来とは少し違った形でDEARを行うことになりました！いつも通り座って静かに本を読んだり、オーディオブックを聞いたり、ボランティアで来た親御さんたちに本を読み聞かせてもらったり、など読書を楽しみ、ごみ箱にとても多くの本を投げ捨てました。

ふーん、えっ、捨てた？！そうです、読み間違いではありません。エレメンタリーの生徒たちは今年、学級図書に新しい本を増やすため、自ら残す本を決める際に使うクライテリアを作ったのです。本の選別はとても重要な役割です。春に新しく美しい花を咲かせるためには、まず新しい花の行く手を阻む枯れてしまった植物たちを切り取らなければなりません。その自然界の法則と同様に、時には、新しい本を入れるために、古い本を捨てることも必要なのです。

心配はいりません。実際に本をごみ箱に投げ捨てたわけではありません。古くなった本たちは、セカンダリーの美術の素材として使われたり、リサイクルされたりなど、それぞれお話を子供たちに伝える「本」とは違った、新しい役目を持ってエレメンタリーの教室から旅立ちます。

本の選別を行った後、生徒たちは、どんなジャンルやトピックの本を学級図書に招き入れたいかを話し合いました。



#### サクラメダル

サクラメダルの投票が始まりました！詳しい情報や、投票用の紙などをお求めの方はMs Leslie, Ms Erika, または Mr Timまで連絡をお願いします。今現在、エレメンタリーではすでに17もの投票を預かっています(11月13日現在)。100票を目標に、図書室の方で賞品を用意したいと思っていますので、ご協力をお願いします。賞品に関しては、エレメンタリーの図書室にアイデアを書く場所があるので、お迎えついでなどによっていただけると幸いです。もっとクッションが欲しい？ Dog Manをあと十冊？ Peanutsのコレクションを全部？希望を教えてください！

Leslie Hynes  
Elementary School Librarian

This article was translated by Michiru (G11B).  
この記事はG11B Michiruが翻訳しました。



### Library Media Center (LMC)

#### Drop Everything and Read (DEAR)

2018年から新たに全てを忘れて読書…と観賞、ということで映画鑑賞のタベが加わりました。

G6~8およびG9~12の生徒は、本から映画化された最も見たい映画に投票しました。

##### ★ G9~12

映画: Love Simon, 17歳の告白 | 監督: グレグ・バーランティ (2018)

原作: Simon vs. the Homo Sapiens Agenda, ベッキー・アルバータリ著

16歳のSimon Spierは同性愛者であったがその事実を隠して生きていた。しかし、あるEメールが流失してしまい、Simonが同性愛者であるという事実が学校中で知られる危機に瀕する。Simonはクラスのお調子者、Martinのための恋の橋渡しをしないと彼の秘密が全員にばらされてしまうと脅迫される。さらに悪いことに、電子メールを送りあってきた少年、Blueのプライバシーも晒されるることになってしまう。

##### ★ G6~12

映画: ジョーズ | 監督: スティーブン・スピルバーグ (1975)

原作者: ピーター・ベンチリー

スピルバーグ作品にインスピレーションを与え、何百万人ものビーチ客が水に入るのを恐れるまでにもなった、食人サメの古典的な大ヒット作スリラー。生徒たちは身の毛もよだつ恐怖を経験しました！

##### ★ G9~12

映画: オリент急行殺人事件 | 監督: ケネス・ブラナー (2017)

原作者: アガサ・クリスティー

豪華寝台列車オリент急行の車内で殺人事件が発生する。被害者には刺し傷が。容疑者は13人。天才探偵エルキュール・ポアロはこの最も独創的な犯罪を解決できるのか？

#### 2018年から新たに、“全てを忘れて読書…とリスニング”

セカンダリー生は毎週一回、20分間フィリップ・K・ディック、カート・ヴォネガット、エドガー・アラン・ポー、ハワード・フィリップス・ラヴクラフト、マーク・トウェイン、スティーブン・キングやグリム兄弟が著した物語のオーディオブックを聞きました。このオーディオブックは以下のウェブサイトでも聞くことができます。

Web <http://bit.ly/DEAR-audiobooks-2018>



前ページの続き

### 2018年から新たに、“全てを忘れて読書…と読み聞かせ”

生徒たちは20分間お気に入りの本の最初の数ページを他の生徒に読み聞かせました。これには多くの先生も楽しんで参加しました。この中でも特に熱意をもって読み聞かせをおこなった生徒たちはクラス全体にも本を読み上げを行い、Mr Tim と Ms Erikaがお菓子を提供してくださいました。

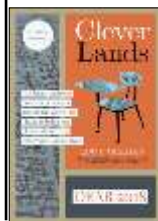
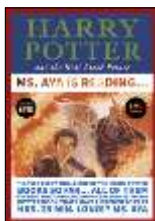
ムービーナイトで配られたお菓子はSahil (G10A)がパーソナルプロジェクトのリーサーチの一環として提供してくれました。

### DEAR—inspiring reading

先生たち(シェフも!)が今月読んでいる本の題名を投稿してくれました。これらは、魅力的なポスターとなって学校中に掲示されました。生徒たちは、本を読むのは自分たちだけではなく、先生たちも読書をするということを学びました。図書室のスタッフは、生徒、教師、ゲストが本についての会話をすること目撃し、うれしく思いました。

先生たちが読んでいる、もしくはおすすめしている本は下記のリンクで見ることができます。

Web <http://bit.ly/DEAR-inspiring-2018>



### KIST Week of Code 2018

今年からWeek of Codeのイベントウェブサイト(Mr TimがAdobe Sparkで作成)ができました。下記のリンクで現在の状況やイベントの詳細を見ることができます。

Web <http://bit.ly/Code-2018>

### LMC新着情報

今年、LMCチームは生徒と教員のサポートにさらに力を入れています。その一環として、一回1冊に限られますが、KISTに在籍している人であれば、だれでもオンラインでアクセスできる雑誌のセレクションを増やしました。利用希望者はLMCでユーザーネームとパスワードを確認してください。また、リサーチや趣味の読書のためのフィクション・ノンフィクションもさらに充実させました！ぜひ月曜から金曜日の午前 8:10 から午後 4:50 の間にLMCに来てください。

Mr Tim | Ms Erika

Teacher-Librarian | Library Assistant

This article was translated by Shu (G11A).  
この記事はG11A Shu が翻訳しました。

## 日本在住の作家がG8クラスを訪問

9月10日、Holly Thompsonさんというとても著名な日本在住の作家がG8のEnglish Language and Literature(言語と文学)での回想記の書き方を学ぶ授業に参加してくださいました。この単元で、生徒たちは Ms Thompson が著した作品、Orchardsをもとに夏の思い出を描く短編小説に取り組みました。

Orchardsはアメリカ人と日本人の親を持つ中学2年生の男子がある夏、ニューヨークで友人を亡くし、その後静岡で親族とお盆を過ごすというストーリーをもとにした小説です。

今回、Ms Thompson は魅力的、且つ建設的なワークショップを自ら手掛けてくださいました。このワークショップを通して彼女は比喩やイメージを使用し、作品に奥深さを生み出せるような書き方の説明を始め、2時間に亘って生徒たちに詳細なフィードバックを与えたり作品を磨くために必要なスキルを教えてくださいました。この単元の総合評価では生徒たちはモチーフ、対話、多義性など、ストーリーをより濃いものにすることが求められていました。このようなスキルに関して、Ms Thompsonは生徒のみならず、私たち教員にも明確なアドバイスを与えてくださいました。生徒たちはMs Thompson に自身がクラスで取り組んでいるストーリーについての質問の他、作家という職業についてなどと沢山質問をすることが出来ました。



さらに、Ms Thompson は生徒たちのワークショップ後に、G5~12の英語教科及び言語サポートの教員たちを対象としたワークショップを行ってくださいました。私たちはこのセッションを通して効果的なフィードバックの与え方や明確なライティングの教え方など、より生徒たちのためになる効果的な指導方法を学びました。啓発的で実りある経験となりましたので、今後も是非Ms Thompsonに訪問していただきたいと願っています。

Steven Otis

Subject Area Coordinator—English

## ピア・サポートリーダーズ

G11と12のピア・サポートリーダーズが何故この役割を担うことになったのかの説明と、いくつかの有益なアドバイスを提供してくれました！

### Ayumi (G11A)

**ピ**ア・サポートリーダーになったのは、DPに入ると、自身の感情を思い返ることの重要性を忘れがちだからです。私は友人たちだけでなく、クラスメートの感情に寄り添いたいと思ったのです。

**アドバイス:** どんな時も、好きなことをするための時間は確保すること。



### Karen (G11B)

**ピ**ア・サポートリーダーになったのは、クラスメートが不安に思っているのを聞いたり、私自身の経験をシェアすることで、彼らの気持ちを少しだけ軽くできるかも、と思ったからです。私自身にとっても、クラスメートの事や、学年全員が共有している悩みについてよく知る良い機会だと思いました。そしてそれらを通じて、一緒に悩みや問題を解決できたらいいと感じたからです。

**アドバイス:** これから試験期間になります。多くの人が試験の日にベストを尽くせるか、7や8の成績をとれるか、そもそも試験の準備をしっかりできるのかについてストレスを感じ始めていると思います。私自身これらのストレスや心配を理解できますが、自分を信じ、リラックスしてベストを尽くすことが大切だと思います。必ず、最後には努力が報われ、良い結果が待っていると確信しています。個人的には、ストレスを感じたときは勉強の合間に音楽を聴いたり、おやつ休憩をとったりするようにしています-ぜひ、一度試してみてください！



### Nimit (G11B)

ピア・サポートリーダーになったのは、IBDPカリキュラムを開始すると、課題の量などのプレッシャーでストレスを感じる生徒が多いからです。学年が一丸となってこの問題に立ち向かい、助けが必要な人に手を差し伸べ、DPのプレッシャーによるストレスを回避したいと思います。

**アドバイス:** これから学年全員がとても忙しくなることはわかっていますが、決してあきらめず、強い意志を持ってお互いを助け合い、これからの困難と一緒に立ち向かいましょう。



### Tom (G12B)

**私**はだれかを助ける行為は自分自身を満足させ、良い気分になるので、「利己的な」ものだと感じています。友人たちに手を貸す素晴らしい機会を提供されているのだから、やらない理由はありません。そうですね？☺

**アドバイス:** どんなに大変でストレスの多い時が来ても、楽しむことは忘れないで。



### Gopal (G12B)

**ピ**ア・サポートリーダーになろうと思ったのは、自分のリーダーシップやコミュニケーション能力を向上させるとともに、クラスメートや同年代の生徒が抱える問題をもっと理解する良い機会だと思ったからです。もう一つの理由は、自分はこれまで物事を論理的に考えるようにしていて、同年代の生徒の抱える問題を、それが大きなものでも、些細なものでも、解決する手伝いがしたかったからです。自分が問題の解決に少しでも貢献出来たらとてもうれしかったのです。

**アドバイス:** あまりストレスを抱え込まないこと。そして、どうしようもないと感じたことでも、時間が解決してくれることもあるのです。





## ワールドスカラーズ・カップ

World Scholar's Cupへの参加は自分にとって一生に一度の得難い経験になりました。

11月の2週間、私はイエール大学で行われたWorld Scholar's Cupの決勝大会に参加しました。World Scholar's Cupとは学生たちが学力や教養を競う大会で、3人一組で与えられたトピックについて討論をしたりクイズに挑戦したりするものです。この大会は合計3つのラウンドで構成されています。まずは東京で行われるリージョナルラウンド。その次には3000人以上の学者が参加するグローバルラウンド。私はクアランプールという美しい都市でこのラウンドに参加し、一週間に亘って他の学生と競い合い、なんと、イエール大学での決勝ラウンド、Tournament of Champions まで勝ち進む事が出来ました。

Tournament of Champions の初日、私はとても緊張していました。世界中からとても賢い学生たちが集まるので、あまり自信がありませんでした。しかし、イベントの司会者たちが突然パイナップルピザについてラップを歌い始めた途端、一気に緊張がほぐれました。翌日のScholar's Challenge は討論と共同ライティングを競い合うものでした。このScholar's Challengeは120問の選択式のクイズで、クイズの内容は学者たちが1年かけて学んでいたトピック等についてです。最終ラウンドはやはり他のラウンドに比べると難しく、クイズ終了時にはへとへとでした。しかし、このラウンドはまだまだ終わりません。「対外関係は親睦というよりもロマンスなのか」というトピックについて討論をしたり、1時間でエッセイを書き上げたり・・・とても気が必要となるイベントでした。夕方には私も含めて、私のチーム全員、眠りに落ちる寸前でした。

他にもイベントは沢山あり、内容は様々でした。例えば、Scholar's Ballでは他の参加者とダンスをしたり、Scholar's Scavengeでは顔見知りではない学生たちと宝探しに参加するなど、色々な経験ができました！



大変でしたが、結果的には忘れることのない経験となりました。学力・教養を競うイベントですが、宝探しやダンス、歌を沢山歌ったりして、とても楽しめました！参加者全員、個人として認められている雰囲気があり、居心地の良いイベントでした。私は、ミックスチームに入ることができ、インドからの学生二人とチームを組むことが出来ました。このイベントの前は赤の他人でしたが、イベントが終わる頃には様々な国の子ども達と友達になることが出来ました。

様々なトピックについて色々学ぶので、私はWorld Scholar's Cupをお勧めします。ただ楽しく学べるだけではなく、KISTで学ぶ知識にも関連したことに触れることができます。そして、パブリックスピーキングやコラボレーションの仕方、時間の有効な使い方など、他にも得られることは様々です。イベントでのエネルギーに満ちた空間は自信と勇気を身に着けられるものとなります。私は来年もこのイベントにチャレンジします。イベント後には新たな知識、経験、そして巨大なアルパカのぬいぐるみを手に入れることが出来るでしょう！

Sara (G8A)





## クラブ活動のハイライト



### “Origami Fun” 楽しい折り紙クラブ (エレメンタリー)

折り紙と数学は密接な関係にあるということをご存知でしたか？折り紙は創造性を養う楽しいものですが、同時に数学的思考力を養うのに役立つのです。折り紙の世界への探求を深めることで、より数学的感覚が養えるのです。

Origami Funでは、生徒がただ折り紙を折るだけではありません。クラブでは生徒の批判的思考力を養っているのです。実際に折り紙をしたことがある方は、折り方の説明図を理解するだけでもなかなかの思考力を必要とするということをお分かりだと思います。説明図を読み取り、複数の段階に亘る指示を理解し、先読みをして折っていくことは非常に良い頭の体操になります。また、多彩な数学的概念が養われるとともに、正確さが磨かれます。紙に折り目を付けたり、角がとがった状態にするには微細運動能力、指先などを自在に動かすスキルが必要になります。Origami Funではこのようなスキルを磨くことができます。

二つの異なる文化を背景に持つ私は、折り紙に、他に代えがたい強い魅力を感じます。私の中学時代の数学の先生は天才肌の方だったのですが、折り紙に魅了されて、しばしば授業で折り紙の角度や折り目についての探求を生徒に課していたことを思い出します。

折り紙の可能性は無限で、クラブでは生徒たちが自由にスキルや理解を伸ばしていく機会を提供し、その過程を楽しみました。長い時間をかけて熱心に折った作品を生徒が家に持ち帰る時の生き生きとした嬉しそうな姿を見ると、私も心から喜びを覚えました。

**Aya Kurosaki**  
Club Supervisor



### 浴衣縫製クラブ (セカンダリー)

クラブリストが送付された来た時にとりあえずざっと眺めました。10年生になり、やらなければならないことも多くなってきたので、特にクラブに参加する気はありませんでした。でも、浴衣縫製クラブの紹介文を読んだ時、参加の誘惑を退けることができませんでした。私はファッションに興味があり、また、パーソナルプロジェクトも裁縫関連のものなので、これはまたとない機会だと思いました。クラブにはメンバーが4人しかいないので、とてもアットホームでありながら、早い、でも早すぎない丁度いいペースで作業が進みます。Mr Jonesの、新しい技術を習得できるようサポートしてくださりながら進む指導のおかげで、楽しみながらも効率的に作業を進めることができました。まだ浴衣は完成していませんが、一枚の布が浴衣になっていく過程に関わるのはとても楽しいです。このクラブに参加し本当に良かったと思いますし、友人たちや自分の浴衣が完成するのが楽しみです。



**Anya (G10B)**





## Staff 10!

今月のStaff 10!では2017年8月からKISTセカンダリースクールに在籍している **Heather Neill** をご紹介します。Ms Neillは今年、MYPとDPのEnglish Language and LiteratureそしてDPのTheory of Knowledge (TOK) (知識の論理)を指導するとともにG9Aのホームルーム・アドバイザーアシスタントでもあります。さらに、今年にはDPコアコーディネーターにも任命されています。



Ms Neill

### 1) 出身地について面白いことを教えてください。

美しい海岸線と豊かな漁獲量で知られるスコットランドのFifeという地域の出身です。英国1と言われ続けているフィッシュアンドチップスのお店は私の出身地にあります。とっても不健康で、とっても美味しいんです！

### 2) 世界で一番好きな場所はどこですか？

Luang Prabangというラオス北部の小さな村です。これまで訪れた中で最も美しく、静かなところ。山と川に囲まれ、寺院が溪谷に隠されるように存在しています。ここは「古き良き時代」の息吹に満ちていて、過去に紛れ込んだような気持ちになります。人々は親切で、この土地の料理はとっても辛くてまさに私好みです！

### 3) チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

大伯父のTomは第一次世界大戦でその勇敢さを称えられ、ビクトリア勲章を授与されました。今でも戦場で大伯父の行動が人命を救ったことをつづった全国紙の切り抜きを持っていて、こんな親族を持ったことを誇りに思っています！

### 4) 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

子どものころ、体操選手をしていて、今でもその当時の技をいくつか行うことができます。まだ宙返りができますし、余興として前振りなくスプリットをすることもできます。

### 5) ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

野ネズミを食べたことがあります - おいしかったです。

### 6) あなたにとって一番の宝物は？

パスポートです

### 7) あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか？その理由もお聞かせ下さい。

Thinker(考える人)ですー私は「右脳派」で人生の大きな命題について考えることを好みます。もちろん、これには良い点も悪い点もあるのですが…

### 8) もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

人生における悲しい経験、痛みをもたらした出来事、自分を傷つけた人たち-これらすべてを自分自身を形作り、正しい決断ができるようになるための価値ある経験としてとらえなければなりません。私は自分の人生を一片たりとも変えたいとは思いません。スコットランドでよく言われているように、「自分のために与えられたものは過ぎ去る・離れていくことはない」のです。

### 9) 自分を高めるために今やっていることは？

今、ロンドン大学通信課程で心理学修士となるための勉強をしています。平均して週20時間勉強しなければならないので、ゆっくり休む時間が取れず、とても大変に感じることもあります。それでも、この経験は私自身をTOK教師として大きく成長させてくれましたし、私と同じように学業に追われているDP生たちにより共感できるようになりました！

### 10) ファンに一言お願いします。

偉大なA.A. Milneによる格言を捧げます:

「プー、僕たちが下にいるときに大きな木が倒れてきたらどうしよう？」ピグレットは言いました。

「そうならなかったら、と考えたら？」プーは言いました。プーの返事をよくよく考えてみた後で、ピグレットは安心することができました。

## オフィスアップデート

### 学費のお支払について

2018年度(2018-2019 school year) 学費の第3回目お支払期限は**12月17日**です。お支払いがお済みでない場合は、支払期限までをお願いいたします。



### 2019年1月からのスクールランチオーダーの変更について

1月からのスクールランチオーダーの曜日変更・キャンセルの申し込み受付は、**12月14日**までとなっています。

曜日変更・キャンセルをご希望の方は、必ずフォームを提出してください。申し込み締め切り後の受付はいたしませんのでご了承ください。

フォームはウェブサイトにご覧いただけます。

Web <http://www.kist.ed.jp/files/pdf/enrolment/School%20Lunch%20Order%20Form.pdf>



## 保健便り

### ノロウイルス

#### ノロウイルスとは？

ノロウイルスは急性胃腸炎を引き起こすとても感染力の強いウイルスです。このウイルスは“お腹の風邪”と呼ばれますがインフルエンザとは関係がありません。

#### どの様にしてノロウイルスに感染するのでしょうか？

ノロウイルス感染は学校等、人々が接近し混んでいる環境で素早く蔓延します。ノロウイルスは感染している人の便や吐物に存在し簡単に人から人へと感染します。このウイルスは症状に関係なく2週間近く感染者に潜在します。

#### 感染経路について

- ノロウイルスは体の外でも数日間生き残ることができ、そのウイルスに触れた手が口に触れた場合。
- ウイルスに触れた手を十分に洗わずに調理された、ノロウイルスに汚染された食品を食べたり飲んだりした場合。

また一度ノロウイルスに感染しても残念ながら耐性は出来ません。

#### 感染した時の症状は？

主な症状は吐き気、嘔吐、軟便、下痢、腹痛や腹部不快などで、この様な症状は感染から12～48時間後に始まり3日目位続きます。他の症状としては微熱、頭痛や筋肉痛です。まれにノロウイルスに感染しても症状が現れない人もいますが、この場合も感染性がありウイルスを蔓延する可能性が十分にあります。

#### ノロウイルス感染時の治療法は？

現時点ではノロウイルスへの特効薬やワクチンなどはなく、回復は個々の健康状態や免疫力によります。ほとんどの人は数日で回復します。嘔吐や下痢をした時はいつも以上に水分をしっかり補給し脱水を防ぎます。またウイルスの排出をするため、医師の指示がない限り吐き気止めや下痢止めは使用しない。(特に子供には使用しない)。

#### 参考資料:

Ministry of Health, Labour and Welfare. (2018, Nov 18). Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/norovirus/>

### もしこの様な症状があれば 病院受診を勧めます



- 下痢が24時間以内に6回以上あった場合。又は嘔吐が24時間以内に3回以上あった場合。
- 酷い脱水症状、少量の排尿又は排尿がない。
- 血性の下痢
- 数日経過しても症状の改善が見られない場合。
- 発熱
- 腹痛

#### ノロウイルス感染による合併症について

ノロウイルス感染は脱水や栄養失調の原因になることもあります。疲労感、口や喉の渇き、元気がない、目眩といった脱水の前兆を感じた場合は医師に相談して下さい。

#### ノロウイルス感染拡大の予防について

- 感染の拡大リスクを最小限にするためにも症状が治まって48時間以内は登校せず家で療養するのが望ましい。
- 石鹸を使いこまめにきちんと手洗いをする。特にトイレの後、おむつ交換後、調理前や食事前は念入りに手洗いを行う。
- アルコールジェルはノロウイルスには有効ではない。
- 嘔吐や下痢があった場合、ゴム製の手袋(できれば使い捨て)とマスクを着用してから掃除を始める。清掃には塩素系漂白剤(500 mlの水に対して10 ml(ペットボトルのキャップ2杯)を使用し、広範囲に渡って清掃を行い汚物はトイレに流す。使用したゴム手袋とマスクは破棄が望ましい。酸素系漂白剤はノロウイルスには無効。
- 自分がノロウイルスに感染した場合、食事の準備や人の世話など避けたほうが望ましい。
- 90℃以上、90秒以上でウイルスは死滅するので、調理はしっかりと中まで火を通す。
- 果物や野菜は食べる前にしっかり洗う。
- タオルなどの共有は避ける。

Yukiko Yamazaki  
School Nurse





## 大学ガイダンスニュース

### 大学出願

北半球にある主な国々の大学出願は9月に始まり、現12年生の多くはすでに一つ以上の大学に出願書類を送り、そのうちの何人かはイギリスやアメリカの大学から条件付きの合格をもらっています。おめでとうございます！他にも、結果を待っている生徒や、オックスフォード、ケンブリッジ、スタンフォード、ハーバードといった超難関校から面接試験によばれた生徒もいます。これらの生徒も含め、大多数の生徒は冬休み中から冬休み明け以降も引き続きいくつもの大学に出願します。

頑張ってください。幸運を祈り、今年も素晴らしい結果が得るのを楽しみにしています。

### KIST卒業生トーク

#### Carmina (KIST 2010、Princeton 2014、Yale 2018)

11月5日のランチタイムにたくさんの生徒がCarmina(2010年卒)に会いに来てくれました。ありがとう！彼女はエンジニアリングの学位をとったプリンストン大学での日々やMBAと国際関係論の修士号を取得したイェール大学での経験を話してくれました。また、KISTでの懐かしい思い出を語ったり、DPの勉強方法や、大学進学準備についての生徒の質問に答えたりしてくれました。



Carmina(前列中央)が生徒たちと自身の経験を共有しました

### Raj(2016)がジャパントイムズの紙面に登場

慶應大学経済学部PEARLプログラムの新しいパンフレット(詳細はThe Comet September 2018をご覧ください)につづいて、Raj(2016年卒)がジャパントイムズの特集号"Internationalization of Japanese Universities"(October 22, 2018)に日本の大学の国際プログラムで学んでいる現役学生、卒業生10人のひとりとして登場しました。

### Diverse opportunities abound

Name: Shah Raj  
University: Kelo University  
Faculty: Faculty of Economics  
Department: PEARL Program (Programme in Economics for Alliances, Research and Leadership)  
Year: Third  
Nationality: Indian



Attending Kelo through the PEARL program has given me the chance to understand the aspirations and efforts of both the university and Japan as a whole to become "global." Whether through professors from various backgrounds or students from around the globe, I have been exposed to many unique and cutting-edge topics such as financial technology and other user-related topics that are positioned at the center of global discussions today. With the university's support, I have been able to expand my interests and horizons, most crucially through practical experiences such as internships and part-time jobs, but also through seminars and inter-university events.

RajがThe Japan Timesに登場しました

### Sara (G8A) が津田塾大学の「エッセーコンテストJr.」で大賞受賞

8年生のSara (G8A)が、津田塾大学英文科主催の小学生と中学生を対象とした一般公募のコンテスト「エッセーコンテストJr.」に応募し、見事に大賞を受賞しました。おめでとうございます！津田塾大学は日本で最も古い女子大学のひとつで、創立者である津田梅子は、今から150年ほど前に最年少の6歳で明治政府の交換留学生としてアメリカに留学しました。津田塾大学は奥出の母校(国際関係学科78年卒)でもあります。コンテストの詳細は下記リンクをご覧ください。



**Web** [www.tsuda.ac.jp/open-college/essay-jr/index.html](http://www.tsuda.ac.jp/open-college/essay-jr/index.html)



大賞をいただきとても光栄です！エッセーコンテストのテーマは「世界とわたし」で、私はたとえひとりであっても人は世界を変えたり影響を与えたりできるのだということについて書きました。授賞式で津田塾大学のキャンパスに行き、大学を見学することができました。当日行われていた学園祭にも参加して、とても楽しかったです。



津田塾大学での表彰式でのSara(G8A)の写真が毎日小学生新聞に掲載されました

皆様良い冬休みと幸せな新年をお迎えください。

**Mrs Keiko Okude**

Career and University Guidance Counselor  
Office hours: Mon, Tue, Thu, Fri 10:00-17:00  
[keiko.okude@kist.ed.jp](mailto:keiko.okude@kist.ed.jp)